



医療法人 真生会

真生会富山病院

SHINSEIKAI TOYAMA HOSPITAL

地域連携だより

第32号 令和4年11月発行

〒939-0243 富山県射水市下若 89-10

TEL : 0766-52-2156 FAX : 0766-52-2197

<https://www.shinseikai.jp/>



真生会伏木クリニック開院のごあいさつ

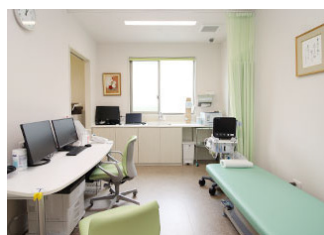
今年9月1日、高岡市伏木一宮に真生会伏木クリニックがオープンしました。真生会高岡クリニックに続いて2つ目の真生会富山病院の分院です。「日本の渚100選」にも選ばれる雨晴海岸を望む高台にあり、晴れた日には2階から富山湾越しに3,000m級の立山連峰を眺めることができます。

標榜科は内科・外科・疼痛緩和^{とうつう}内科です。私は真生会富山病院で消化器外科医をしていました。総合的に診療できる地域のクリニックとして、さまざまな症状やお困りごとに対応しております。

疼痛緩和内科という診療科が珍しく「何をやる科ですか？」とよく質問されます。「痛みをやわらげる科」ということですが、患者さんの苦しみを傾聴し、主に漢方薬による治療を行っています。対人援助論に基づいたケアとキュアの組み合わせによって痛みがよくなる方が多くあります。援助とは、苦しみを和らげ、軽くし、なくすることです。がんの患者さんの在宅緩和ケアも11月から始めました。発熱外来では新型コロナウイルス抗原検査も行っており、地域の方々から喜ばれています。



富山県立伏木高等学校正門の目の前にあります。



診察室



院長
ふるたにまさはる
古谷 正晴

また、週に2回、月曜と金曜の午後に真生会富山病院内科の刀塚俊起^{なたづかとしき}医師（副院長）が専門外来を行い、血液疾患、リウマチ・膠原病^{こうげんびょう}、内分泌疾患などの患者さんを診療しています。今後ともご指導のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

えんげ 嚥下外来の開設

「嚥下（えんげ）」とは、食べ物・飲み物を飲み込むことをいいます。

嚥下障害を来す原因として、脳卒中や神経・筋疾患などがありますが、近年は明らかな原因疾患のない「筋肉量減少・筋力低下による嚥下障害」が注目されています。

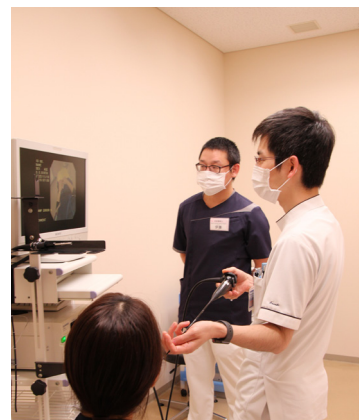
この嚥下障害は、適切な時期にリハビリと栄養療法を行えば、進行を予防し得る嚥下障害です。そこで、少し飲み込みにくくなってきた、それなりに食べているのに痩せてきた、といった「フレイル」の段階で嚥下障害を早期発見し、機能を維持・改善する目的で、令和4年4月、「嚥下外来」という専門外来を開設しました。

嚥下外来開設に至った経緯と熱い思いを、担当スタッフに聞きました。

言語聴覚士：伊藤 篤^{いとうあつし}

私は「話す・聞く・食べる」リハビリの専門家である言語聴覚士として、8年前より当院で勤務しています。高齢化に伴い、年々うまく食べることができない入院患者さんが増えてきています。そのような方々は、入院前からひどく痩せており、嚥下機能が既に低下していることが多いのです。

口から食べ続けるには、栄養状態と口や喉の力を保つことが必要不可欠ですが、このような状態ではリハビリの効果が得られ難く、最終的には「食べる」以外の方法で栄養を確保することを余儀なくされる方は、少なくありません。



“死んでもいいから口から食べたい”

患者さんの切なる声をお聞きするたびに、もっと早く介入できていれば…と非常に残念に思っていました。そこで、最期まで口から食べ続けることへの手助けとして、嚥下外来を開設しました。より多くの方が、少しでも長く口から食べ続けられるように、支援したいと思います。

管理栄養士：片岡 恵理子^{かたおか えりこ}

栄養相談では、嚥下機能評価の結果を情報共有した上で、普段の食事内容や生活をお聞きしながら、個々に合わせた相談を行っています。

嚥下障害を有する方の多くは、1回の食事量が少なく、知らず知らずのうちに栄養摂取量が減っています。食事に関する助言に加え、必要に応じて栄養補助食品や間食などの提案をして、低栄養の改善を目指します。

嚥下外来を受診される方は、「BMI（※）18.5未満」と既に栄養障害を来している場合が大半で、1年間に10kg以上の体重減少を認める方もおられました。体重減少が著しいと、嚥下機能の著明な低下も伴うことは珍しくありません。

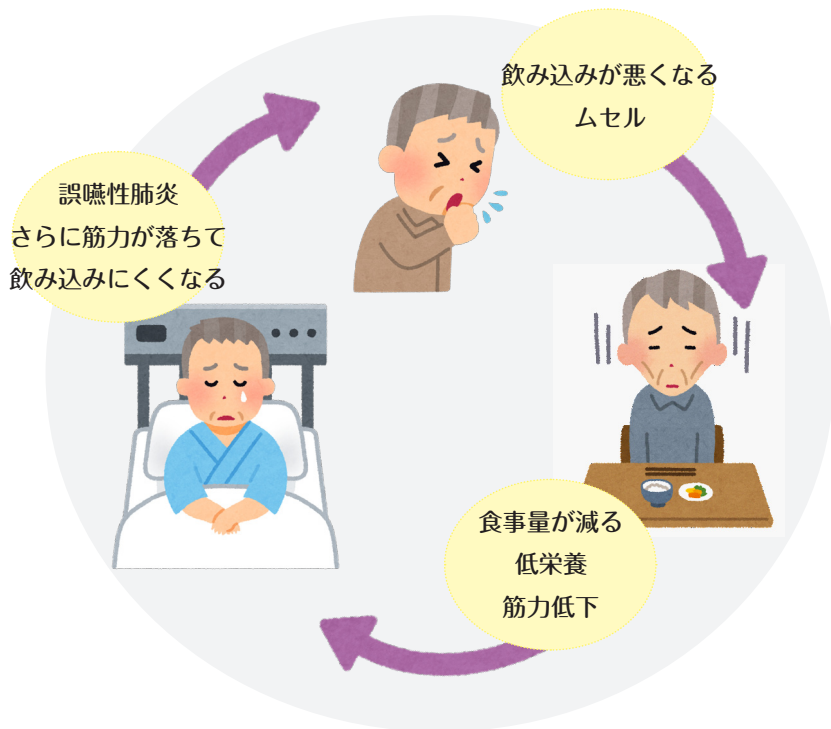
取り返しのつかない嚥下障害に陥る前に、気軽に嚥下外来を受診しようと思っていただけると、今後は嚥下外来の認知度も高めていきたいと思っています。



（※）BMI：体重(kg)÷身長(m)の2乗で算出される体格指数。18.5未満を「低体重」と分類。

嚥下外来の目的

フレイル（元気な状態と要介護の中間的な状態）の段階で嚥下障害を早期発見しリハビリ
& 栄養療法で機能を維持・改善すること



開業医の皆様へ

嚥下外来受診には、かかりつけの医療機関から「嚥下外来への診療情報提供書（紹介状）」が必要です。詳細は当院のホームページ内、嚥下外来の紹介ページ（下記QRコード）をご覧ください。



〈 嚥下外来の流れ 〉

当外来は予約制となっております。受診希望日の前日までに、電話でご予約ください。

予約

【問い合わせ窓口】 0766-52-2156（代表電話）

なお、嚥下外来の受診時は、かかりつけの医療機関から、「嚥下外来への診療情報提供書（紹介状）」が必要です。



嚥下外来

- ・嚥下に関する問診
- ・持参していただいた食物を用いた、嚥下内視鏡検査。
- ・検査結果に合わせ、言語聴覚士が個別相談。



（後日） 栄養相談 診察

- ・体組成検査
- ・管理栄養士による栄養スクリーニング、身体機能検査（握力、5回立ち上がりテスト、ふくらはぎの周囲径）、食事や栄養についての個別相談。
- ・医師の診察



再診

基本的には3ヶ月後に、初回受診時と同じ検査を行い、体の状態を調べます。
必要に応じて継続したりハビリ、栄養相談を提案いたします。

「社会に学ぶ『14才の挑戦』」 — ころの家 —

県内各地で行われている「社会に学ぶ『14才の挑戦』」の活動で、看護小規模多機能型居宅介護ころの家にも射水市立大門中学校から3名の受入れを行いました。



利用者の方へご挨拶。耳の不自由なお年寄りにもわかるよう大きな文字で紙に書きました。



折り紙で秋をテーマに作品づくり



理学療法士によるリハビリの見学



職員へのインタビュー



シーツ交換の体験



こうこう
口腔体操の手順をイラスト付きで作成。上手ですね。

「社会に学ぶ『14才の挑戦』」を終えて

時代の移り変わりにより、家族構成や地域性が変化し、「80歳を超える高齢者と直に接したことがない中学生」は珍しくありません。少子高齢化、核家族化する世帯構造の変容が子どもたちと高齢者の接点を減少させている現実に、さまざまな場面で直面します。そこでまず初めに、オリエンテーションで高齢者の特徴を学んでももらいました。

利用者さん方とのコミュニケーションは、最初のうちは気恥ずかしそうにしていたのですが、少しずつお話ししたり、一緒に体操をしたりしながら、次第に打ち解けていきました。利用者さん方にとってはお孫さん、曾孫さんのようなものです。絵を描いたり、字を書いたりすることが得意な素直で明るい生徒さんたちと楽しく微笑ましい5日間を過ごされました。

昨年3月に「ころの家」を開業し、初めての受入れ事業。ころの家は地域密着型の施設ですので、少しでも地域のお役に立ちたいという思いで受け入れさせていただきました。3人に「将来の夢は何ですか？」と尋ねると、「看護師」「薬剤師」「獣医さん」と答えてくれました。将来の夢を持つことは素晴らしいことです。10年後には社会人になっておられますが、どのような職にかかれても「思いやりの心」を大切に育んでもらいたいと思っております。また、今回の活動を通して「病気や身体に障害のあるお年寄りが安心して暮らせる環境といえば『ころの家』」と感じてもらえたら幸いです。

ころの家 職員一同